

# 試験資格の統合によりさらなる発展を

一般社団法人 日本基礎建設協会

理事・基礎施工士検定試験委員長 木村 亮



平成24年度から私は理事として日本基礎建設協会（以下、「日基協」）の発展のために活動しています。前任者の日下部治先生から「杭基礎は材料や施工法により場所打ち杭や既製杭、コンクリート杭や鋼管杭などに分けられ、また土木や建築などの分野の違いもあり、それぞれが活動している。ただし一般の人にとって見れば「同じ杭」であり、資格制度は一元化した方がよい」と言われておりました。私も先生の意見に同感でした。当時すでにコンクリートパイル建設技術協会（以下、「コピタ」）の理事であったため、ここは私の活動期間中に何とか資格制度の統合を図りたいと考えておりました。

平成23年度に日基協とコピタの間に協議の場が発足し、「技術内容に充実・技術規範の拡大等を図り、より広範かつ高度な専門技術能力を持つ技術者資格として、平成27年度から資格統合を図る」ことになりました。一つの資格が二つに分かれることが一般的な中で、その逆の動きは画期的なことです。統合のためには多くの議論と時間が必要で、関係各位の努力に敬意を払いたいと思います。この資格試験の統合については、国土交通省も大きな関心を示していると聞いております。良い意味で、先駆的な成果だと考えます。

両資格試験制度の統合による「既資格取得者の取り扱い」に対する具体的な対応策も示され、昨年11月に新「基礎施工士」資格試験が実施されました。択一式問題60問（22問の基本問題、20問の必須問題、18問の選択問題）と記述式問題です。勉強しなければならぬ範囲が本1冊から2冊に増えたために、合格率が低下すると予想されまし

た。しかしながら、新資格制度に向けた受験生の関心は高く、例年通りの合格率となりました。日基協としては、今まで過去問題が未公表でしたが、統合を機に過去2年間の問題を公表したため、勉強が嫌いでない人には勉強しやすかったと思われる。

たとえ勉強が嫌いでも、日基協が出版する「場所打ちコンクリート杭の施工と管理」を熟読してもらう必要があります。この本は平成21年に第5版改訂が出版されました。その後、地盤工学会が出版する地盤調査方法や地盤材料試験方法なども平成25年度に改訂されたので、新しい内容に書き換える作業が必要です。その前段階として、日基協では平成27年度から「場所打ちコンクリート杭施工指針・同解説」の改訂作業が進められています。

昨年は「くい基礎」の存在と役割に対して、一般国民の皆様には不信感を抱かせました。今こそ下を向かず「ピンチをチャンスに変える」という前向きな姿勢で、「基礎施工士」の技術力をさらに高める必要があります。私のさらなる活動の目標は、「とび・土工」に分類される基礎施工技術者の職業分類を、正しく「基礎施工士」とすることです。そのためには、打込み、埋込み、回転圧入などで施工する「鋼管杭」に関わる人たちとの統合も当然必要と考えます。杭の設計と施工は別のものではなく、技術者として両者の理解が不可欠です。（一社）日本基礎建設協会の理事としてまた杭基礎に関する研究者として、今後も力を尽くしたいと思います。小さなことでも、お困りのことがありましたらお声掛けください。